



# ばいりん

令和5年7月号

横浜市立梅林小学校

TEL 045-773-0341

FAX 045-772-4862



## 言葉を大切に

校長 芦垣 幸代

6月7日、8日で、6年生が修学旅行に行ってきました。梅林小では今年度も「主体的に考える」「思いや考えを伝え合う」「自他を受け入れる」資質・能力の育成を目指し、教育活動を行っていますが、修学旅行などの大きな行事は、当日だけでなく準備段階も含めて高め合うことができる機会でもあります。2日間、子どもたちは主体的に考え、声をかけ合い、自分たちで楽しもうという気持ちをもって行動していました。そんな中でも私が素敵だなと思ったのは、発する言葉や交わす言葉です。バスの中でレクをするときも「いいよ」「大丈夫」と、係を盛り上げる声が常に聞こえました。宿が近づいてきたとき、少し古めで小さい宿があったのですが、「ここかな…。あ、思っていたより小さい。失礼だけどみんな入るかな。」と話す子ども。実際はそこを通り過ぎたところにあった大きくきれいな宿に子どもたちも「うわ〜、すごい。」と喜んでいたので、その前の宿についても、大きな声で失礼な発言をしないようにしようという気持ちが表れていて微笑ましかったです。いろは坂も、「い」「ろ」「は」とカーブの数を数え、景色が開けたときに「うあ〜、いい景色！」と皆が感動を言葉で表現していました。

5年生の国語の学習の中で、俳句を作り、自分が作った俳句を整える（推敲する）学習が行われていました。クラスで句会を開くことを言語活動として設定していたのですが、友達の作った句について、よいと思うところをグループで話し合っていました。いくつかの視点の中の「共感できるか」という視点について、「この人は自分が住んでいた南国をイメージしているから、『なつかし』という言葉はこの人以外は共感できないんじゃない？」「でも、なるほどと思うということは共感できているということじゃないかな」「『マンゴー』は暖かいところのイメージがするよ」「そうだね」「なるほど」と、言葉について丁寧に話し合っていました。

人は自分の思いや考えを言葉で表します。そのときに使う言葉によって、相手を尊重しつつ思いや考えを交わせるか、相手を傷つけたり、相手との意思疎通ができなくなったりしてしまうか違ってくるのではないのでしょうか。学級の中でも、友達の発言に対し、「何それ」「は？」という言葉で答えるのと、「すみません、聞こえなかったからもう一度言ってください」「なるほど、でもここは私と考えが違う」と話すのでは、言われた方の気持ちが大きく違うし、その後に話が続いていくかどうかどうかも違って来るでしょう。

「おはようございます」「ありがとうございます」「大丈夫？」「とてもいいと思う」など、プラスの言葉、そして、敬語を含めた相手を尊重する言葉など、覚えて使っていきたいです。相手を尊重する気持ちと共に、相手を大事にする言葉を知ること、使える語彙を増やすことも教育活動の中で育てています。

